

陸前高田市調査報告

2013年2月、岩手県陸前高田市において、市長、市担当者及び住民を対象とするヒアリング調査を実施した。同市では、地形上の特徴から用地の確保が困難であるため、避難や仮設住宅への入居、高台移転等をコミュニティ単位で行うことが難しく、従前のコミュニティの維持継続に困難が生じている様子が窺われた。

1 調査の概要

2013年2月中旬、東日本大震災による地震及び津波の被災地である岩手県陸前高田市における住民避難の実態、避難住民の意思反映の状況等についてヒアリング調査を実施した¹。

当日は、陸前高田市役所のご厚意により市内中心部の被災状況を視察した後、同市の各担当部署の方々及び同市内仮設団地の自治会長を対象にヒアリング調査を行った。また、特別にお時間をいただき、戸羽 太 市長からも復興のあり方などについてお話を伺った。その結果の概要は以下のとおりである。

2 市内の被災状況について

陸前高田市における津波浸水高は気仙川河口部で T.P.13.8m に達し、浸水面積は約 13 km² に及んだ。震災による死者・行方不明者は 1700 人以上に上る（2012 年 10 月 23 日現在）。震災前の中心市街地であった高田地区は、津波によってそのほぼ全域が壊滅的な被害を受けている。同地区にあった一部 4 階建ての市役所庁舎も 4 階まで浸水し、職員 295 名中 68 名が犠牲になっている。その他の市街地や沿岸の集落においても甚大な被害が生じており、市内の津波被災戸数 3368 戸のうち 3159 戸が全壊という深刻な状況にある。

3 避難住民の把握とその後の関係維持について

市の人口は、震災直前の 2011 年 2 月末時点の 2 万 4246 人に対し、調査前の 2013 年 1 月末時点では 2 万 710 人であり、約 14.6% 減少している。

住居半壊以上の被害を受けた被災者約 9500 人のうち、市が把握している市外への避難者は約 2090 人、他市町村に住民票を移したのは約 1460 人に上る。一方、全壊等（居住不能）の被害を受けたものの従前の住所のままに置いて移転先を把握できていない住民も約 550

¹ 調査は2013年2月14日、当研究会の事務局にて実施した。調査においては、戸羽市長をはじめ市の担当部署の皆様、並びに住民の方に多大なるご協力をいただいた。この場を借りて改めて厚く御礼申し上げたい。

² 移転先を把握できていない住民については、その多くが市内外の家族等のもとに身を寄せているのではないかと推定された。

